

## 風船蟲

水を張った小さなコップの世界

切り刻んだ紙切れが底に沈んでいる

笑いながら仕掛けた人間の罠だ

そうとも知らず

どこからともなく飛んで来た風船蟲が

一つ二つと水中に下りる

浮きあがろうとする小さな体を

手足をもがいて水底に沈めて行く

底に沈んだひとかけらの小さな白い世界

懸命に辿りついた白い理想

やっと捕まえた満足感で目も潤む

しっかり掴んだ理想の世界そのものが

ふわりと浮いて水面へと彼を押し上げる

背中に虚しい光と空気を感じて

慌てて紙片を手放す

紙片はゆらゆらと揺れながら

コップの底に沈んで行く

根気の良い習性をもつ風船蟲は

これを生き甲斐にして

何度でも繰り返し紙片を探す

コップの仕掛けを神と信じて

疑うこともなく

(2008.6.3)